

最新刊!!

国立大学で進行した法人化が、いかに研究や教育、仕事の現場を壊してきたかを具体的に確認したい。またその困難のなかで教職員がどのように頑張ってきたかを、世の人々にも広く知ってほしい。そして、大学のよりよい方向への舵きりのためにともに考え、動いてほしい。これが本書刊行の動機である。

(「はじめに」より)

# 大学破壊

## 国立大学に未来はあるか

全国大学高専教職員組合(編)

伊藤 正直(東京大学)、長山 泰秀(島根大学)  
 関本英太郎(東北大学)、南 雄二(鹿児島大学)  
 村井 淳志(金沢大学)、市原 宏一(大分大学)  
 糟谷 憲一(橋大学)、青木 宏治(高知大学)  
 森田 和哉(全大教書記長)(執筆)

2008年ノーベル物理学賞  
 益川敏英先生推薦  
 今こそ先進国レベルの  
 公的な高等教育投資を!



定価1680円(税込)  
 ISBN978-4-8451-1111-4

旬報社

購入希望者は組合に連絡下さい。  
 10%OFFでお分けします。

連絡先 本部 (内 3529) 医支部 (内 5858)

はじめに

### 第1章 「駅弁大学はもういらない」!?

- 1 地方での地方大学への期待
- 2 スタートから格差のある地方国立大学
- 3 “国立大学を国家と産業のためにもっともっと働かせろ”
- 4 運営費交付金毎年1%減額のダメージ
- 5 追い打ちをかける人件費5%削減と開講科目の削減
- 6 運営費交付金の最初の算定基礎ルールと地方国立大学の格差問題
- 7 大学院の設置、拡充によるしわ寄せ

### 第2章 「大学教授」を目指す若者がいなくなる日

- 1 底なしの暗さ
- 2 使い捨てカイロ
- 3 日本科学技術研究の終焉?
- 4 ある非常勤講師の生活
- 5 大学院重点政策とその後始末
- 6 文科系だって同じこと

### 第3章 いつまで続く

#### 「研究費獲得コンテスト」地獄

- 1 「校費」が減って、「コンテスト研究費」が増える意味
- 2 肥大化する「コンテスト研究費」
- 3 学長裁量経費という教育研究費搾取装置
- 4 COEという名の箱物
- 5 大学発ベンチャー・特許収入で大学ウハウハという妄想
- 6 研究費獲得コンテスト花盛り——疲弊する教職員
- 7 すぐに役に立たないけれど、人類に貢献する研究がある

### 第4章 沈没寸前の国立大学号、乗組員の大脱走が始まった

- 1 若手研究者を潰さなかった、かつての国立大学
- 2 増え続ける講義・会議・校務
- 3 有力国立大学教員でさえ、私立大学へ脱出
- 4 続発する職員の事故死、過労自殺、うつ病休職
- 5 職員の内定辞退は深刻
- 6 “早く公立学校に戻りたい” 附属学校教員
- 7 離職率高い大学病院看護師

### 第5章 高すぎる教育費は少子化・格差再生産の元凶だ

- 1 年収の三分の一——家計に重くのしかかる学費
- 2 無理をする親と依存できない奨学金
- 3 世界一高い学費
- 4 高等教育無償化が世界のすう勢
- 5 諸外国では手厚い経済的支援の仕組み
- 6 すすむ大学ごとの修学支援
- 7 授業料減免・奨学金制度の改善による次世代育成

### 第6章 混迷深める国立大学の近未来

- 1 国立大学の学長が語る運営費交付金削減の惨憺たる結末
- 2 国立大学の統廃合・削減が財務省の本音か
- 3 統合再編の次の焦点・教育学部
- 4 学長選考にみられる大学の舵取りの迷走
- 5 高等教育への公的支出の少なさが混迷の原因だ
- 6 大学・高等教育の公共的役割の強化こそ重要

おわりに—大胆な国費投入による、  
 強固な研究教育基盤の構築を—  
 国立大学再生に向けた提言

赤煉瓦

No.30  
 2009.4.30

熊本大学教職員組合

内線:3529 FAX:346-1247  
 ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp  
 http://union.kumamoto-u.ac.jp